

＜新規・拡充事項～行政経費～＞

下水道分野の水ビジネス国際展開（拡充）

概算決定額 79百万円（うち特別枠 31百万円）

1. 目的

世界の水ビジネス市場は2025年には90兆円規模（うち下水道分野は約40兆円）に成長することが予測されており、我が国の下水道技術は、膜技術で代表される要素技術については世界でもトップシェアを誇っている。今後、市場規模の大きい下水道の計画から建設、維持管理をパッケージとした水インフラについて、我が国の水関連企業が優位な競争ができるような国際ビジネス基盤の強化を図る。

2. 概要

我が国が培ってきた高度な下水処理技術を核に下水道の計画から建設、維持管理をパッケージとした水インフラとして海外展開するために、下記の施策を一体的に推進する。

- ① 下水道分野の調達案件具体化に向けた計画の策定・推進
- ② トップセールス・サイトセールスに向けた政策と技術のセールス・パッケージ形成
- ③ 日本版ハブ（研究開発拠点・ショーケース）の創設
- ④ 国際優位技術を活用した下水道システムの戦略的な国際標準化

下水道分野の調達案件 具体化に向けた計画の策定・推進

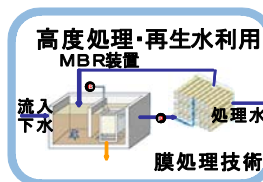
- 途上国の地域の実情やニーズ調査
- 本邦技術を活用した下水道案件の具体化に向けた計画の策定・推進（ブレFS）

トップセールス・サイトセールスに向けた 政策と技術のセールス・パッケージ形成

- 「調達の上流部分の下水道政策」と「政策を実現するための日本の技術」を組み合わせ、日本版水ビジネスのセールス・パッケージを形成

国際優位技術を活用した 下水道システムの戦略的な国際標準化

- 下水道技術の国際標準化戦略の策定
- 優位技術の国際標準化（ISO）への提案のための調査・検討



※知的財産推進計画2010の特定戦略分野として選定

日本版ハブ （研究開発拠点・ショーケース）の創設

- 既存の下水処理施設を改良し、日本版ハブとして下水道技術の国際戦略拠点を創設

下水道技術の国際戦略拠点

技術開発拠点



民間企業にテストベッドとして生下水等を利用した 実証的技術開発の場を提供

ショーケース



実際に稼働中の下水処理場の先進技術を「見える化」し、日本の先進技術をアピール

ネットワーキング 人材育成

日本がアジア太平洋地域の国際拠点である利点を生かし、ネットワーキング活動や研修の拠点化

商談スペース

ショーケースの先進技術を、その場でビジネス商談に入れるように商談スペースを設置

都市環境形成促進調査（うち下水熱によるまちづくり）（新規）

概算決定額 18百万円

都市に賦存する下水熱を地域冷暖房の熱源水として広域的に面的利用した場合の複数街区間の熱配分や水温変化による下水熱劣化予測、放流先の生態系の影響等についてモデル地区において検討し、事業化に向けた手続き等をガイドライン化し、官民連携のもと下水熱利用を推進する。

下水道における戦略的維持管理の推進に関する調査（新規）

概算決定額 12百万円

下水道施設ストックが増大し、老朽化施設の改築等に係わる費用も増大しており、効率的な施設管理の重要性は一層高まっている。また、下水道分野では各施設のライフサイクルコストの最小化に向けた長寿命化計画策定を推進しているところであるが、今後は予算・財源の確保を踏まえ中長期的な経営等を含めたより幅広い視点からのアセットマネジメント（以下「AM」という。）の推進が求められているため、AMの推進に向けたガイドライン(案)のとりまとめを行う。